

教職課程

自己点検・評価報告書

関西福祉科学大学

令和 7 年 3 月

関西福祉科学大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・教科）一覧

- ・健康福祉学部健康科学科 ：養護教諭一種免許状
 中学校教諭一種免許状（保健）
 高等学校教諭一種免許状（保健）
- ・健康福祉学部福祉栄養学科：栄養教諭一種免許状
- ・教育学部教育学科 ：幼稚園教諭一種免許状
 小学校教諭一種免許状
 特別支援学校教諭一種免許状（知肢病）

大学としての全体評価

本学において教職課程が果たしている役割は大きく、令和 6 年度卒業生 534 名のうち、教員免許取得者は 117 名である（複数免許状取得者は 1 と数える）。建学の精神「感恩」のもと、学科の特長を生かした専門性の高い教員の育成に寄与しており、対人援助に焦点を当てた専門的職業人の育成を通して社会貢献の一端を大いに担っている。

本報告書は教職課程に特化して行われた自己点検・評価の結果を集約したものである。各課程において抱える課題はあるが、教職課程全体としては適切な運営を行っているといえる。今後もこれまで培ってきた教育資源の蓄積を活かしながら、今回の自己点検・評価の結果を踏まえて、より一層の教職課程教育の充実と発展を目指したい。

なお、本学の教職課程に関しては免許種別を問わず全学的に実施している事項が多いことから、本報告書は大学全体の状況を基本として、必要に応じて課程ごとの状況を述べることとする。

関西福祉科学大学
学長 津田 耕一

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	3
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	6
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	9
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	9

I 教職課程の現況及び特色

1 教職課程の現況

- (1) 大学名：関西福祉科学大学
 (2) 学部名：健康福祉学部（健康科学科、福祉栄養学科）、教育学部（教育学科）
 (3) 所在地：大阪府柏原市旭ヶ丘 3 丁目 11 番地 1 号
 (4) 教職課程の履修者数及び教員数（令和 6 年 5 月 1 日現在）

①教職課程の履修者数

（登録制をとっていないため、教職関連科目の履修登録者数に基づき算出）

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合計
保健 （中学・ 高校）	49／51 (96.1%)	54／60 (90.0%)	48／56 (85.7%)	2／76 (2.6%)	153／243 (63.0%)
養護	49／51 (96.1%)	54／60 (90.0%)	48／56 (85.7%)	63／76 (82.9%)	214／243 (88.1%)
栄養	24／48 (50.0%)	4／64 (6.3%)	5／46 (10.9%)	5／55 (9.1%)	38／213 (17.8%)
幼稚園	35／35 (100.0%)	45／47 (95.7%)	60／62 (96.8%)	13／15 (86.7%)	153／159 (96.2%)
小学校	35／35 (100.0%)	45／47 (95.7%)	60／62 (96.8%)	39／51 (76.5%)	179／195 (91.8%)
特支	35／35 (100.0%)	21／47 (44.7%)	18／62 (29.0%)	23／51 (45.1%)	97／195 (49.7%)

②教員数

健康福祉学部健康科学科

教職課程科目担当（教職・教科とも）9 名／学部全体 15 名

健康福祉学部福祉栄養学科

教職課程科目担当（教職・教科とも）2 名／学部全体 15 名

教育学部教育学科

教職課程科目担当（教職・教科とも）20 名／学部全体 22 名

(5) 卒業者の現況（令和 6 年 5 月 1 日現在）

学部	学科	就職先	令和 5 年 度卒業生 (名)
健康福祉 学部	健康科学科	養護教諭（公立）	4
		養護教諭（私立）	0
		養護教諭講師（公立）	39
		養護教諭講師（私立）	3
	福祉栄養学科	栄養教諭講師（公立）	2
教育学部		幼稚園（公立）	1
		幼稚園（私立）	1

	教育学科（こども教育専攻）	認定こども園（私立）	6
	教育学科（発達支援教育専攻）	小学校教諭（公立）	7
		小学校教諭（私立）	0
		特別支援学校教諭（公立）	7
		小学校教諭講師（公立）	15
		小学校教諭講師（私立）	0
		特別支援学校教諭講師（公立）	1
	合計		86

2 特色

本学は、対人援助に焦点を当てた専門的職業人の育成を主たる目的とし、臨床福祉の精神のもと、高度な専門的知識、豊かな人間性、高い倫理観をもって社会貢献できる人材の育成に取り組んでいる。具体的には「基礎教育の重視」「きめ細かい学生指導と支援」「キャリア教育とキャリア支援」「教職員の資質向上」「社会貢献の実施」といった特色のある教育・研究活動を展開している。

教職課程においても福祉の心と教育における専門の技術を体得し、豊かな福祉社会構築に貢献しようという情熱をもって 21 世紀を担う幼児及び児童・生徒を育成することのできる教員の養成を目指している。

健康福祉学部健康科学科では、健康・安全・環境に関する知識と専門的技能を修得し、児童・生徒や教職員等の健康と安全を守る養護教諭及び中学校・高等学校教諭（保健）、同学部福祉栄養学科では、人が生きていくために不可欠な「栄養と食」について学び、食育指導を行える専門的能力を身につけ、現場でリーダーシップを発揮できる栄養教諭を養成している。

教育学部教育学科子ども発達教育専攻では、幅広い教養に根ざした、乳幼児期・児童期の理解と、幼児教育・小学校教育・特別支援教育に関する基礎的及び専門的な知識と技能の修得することで、学校教育や幼児教育の場でその専門性を発揮できる幼稚園教諭、小学校教諭及び特別支援学校教諭を養成している。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

教職課程教育の目標は「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」及び学科の教育目的を踏まえて、「福祉の心と教育における専門の技術を体得し、豊かな福祉社会構築に貢献しようという情熱をもって 21 世紀を担う幼児及び児童・生徒を育成することのできる教員の養成を目指す」としている。こうした目標を達成するため、健康福祉学部健康科学科では健康・安全・環境に関する知識と専門的技術を修得し、健康福祉学部福祉栄養学科では人が生きていくために不可欠な「栄養と食」について学び、食育指導を行える専門的能力を身につけ、教育学部教育学科子ども発達教育専攻では幅広い教養に根ざした乳幼児期・児童期の理解と幼児教育・小学校教育・特別支援教育に関する基礎的及び専門的な知識と技術を修得するとしている。上記の目標及び目標を達成するための計画は大学ホームページで公表している（資料 1-1-1）。学生に対しては、各学科で教職課程登録者にオリエンテーションを実施するほか、授業を通して教職課程教育の目標を周知している。関係教職員に対しては、学科会議や各種会議、全学委員会の一つである教職課程委員会にて教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

各授業科目は卒業認定・学位授与の方針に基づいてカリキュラム上に配置しており、カリキュラムマップにて学生が身につけるべき資質・能力と各授業科目の関連性を示している。教職課程教育を通して育む学修成果（ラーニング・アウトカム）についても卒業認定・学位授与の方針を踏まえた内容となっている。また、最終的な学修成果（ラーニング・アウトカム）の一つである教員免許状の取得状況や教員就職状況は大学ホームページに公開している。

〔優れた取組〕

卒業時に一人ひとりに通算 GPA を記載した「ディプロマ・サプリメント」を配付している。ディプロマ・サプリメントにより卒業認定・学位授与の方針で掲げる能力がどの程度身についたか、学修成果の可視化（ラーニング・アウトカム）が図られている（資料 1-1-2）。

「卒業時の全国学生調査」において卒業前の 2 月から 3 月に学修を通じた知識や能力の修得度や満足度を調査し、「卒業生・事業所アンケート」として卒業生とその就職先を対象に職後の社会人としての基礎的行動力を調査している（資料 1-1-3、1-1-4）。

〔改善の方向性・課題〕

学修成果（ラーニング・アウトカム）について全学的な取り組みは実施しているが、教職課程としては教職実践演習に十分に結び付けているとは言えない。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：大学ホームページ（教職課程に関する情報公開）
- ・資料 1-1-2：ディプロマ・サプリメント
- ・資料 1-1-3：卒業時の全国学生調査
- ・資料 1-1-4：卒業生・事業所アンケート

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

教職課程認定基準で定められた必要専任教員数は充足している。教員それぞれの研究実績、学校現場等での実務経験に基づき授業担当を配置し、研究者教員と実務家教員が協同している（資料 1－2－1）。また、全学的な組織である教職課程センターを設置している。教職課程センターは教職課程運営の拠点として関係する事項を総括し、教職課程の円滑な運営及び教員養成に関わる業務を充実させ、学生の資質能力の育成・向上を目的としている。教職課程センターはセンター長 1 名、副センター長 1 名、室員 7 名で構成しており、教員及び教務部職員、各学科の実習室に配置された教職員とで適切な役割分担を図っている。

教職課程の授業科目の実施に必要な教室・図書等の施設・設備は十分に整備されている。健康科学科及び福祉栄養学科が主に利用する大学 3 号館は広々と使いやすい調理実習室や養護看護実習室があり、最新の設備を備えている。教育学部が主に使用する大学 6 号館には小学生用模擬授業実践室や保育実践室をはじめ、図工・被服室、理科室、学生が自主的にピアノの練習が行える ML 教室を備え、教育学部の授業に必要な施設設備を整えている。ICT 教育環境については PC 室を複数備えているほか、学内で持ち運びが可能なノート PC の貸出を行っている。なお、令和 5 年度入学生よりノートパソコン必携化を行っており、一部の科目では電子教科書を使用する等、今後の ICT を活用した教育に対応できるように準備している。

教育の質向上のため、学期ごとに授業評価アンケートを実施、学生から回答を募っている（資料 1－2－2）。教員は FD 活動の一環として、授業評価アンケートの結果を基に自己点検表を作成し、授業科目の改善につなげている。また、大学として一般社団法人全国私立大学教職課程協会及び阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会に所属しており、阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会内では幹事校として活動しているほか、研究会に参加する等 SD 活動に取り組んでいる。

教職課程に関する情報は大学ホームページにて公開しており、教員免許状の取得状況や卒業者の就職状況については毎年度数値を更新している（資料 1－2－1）。

全学としては公益財団法人日本高等教育評価機構での受審を想定した自己点検・評価を実施している。教職課程においても、令和 4 年度以降は教職課程の質向上を図ることを目的とした自己点検・評価を実施し、学修上の課題を把握し、改善に努めている。

〔優れた取組〕

令和 2 年 6 月に学園 2 号館が竣工し、同館の 2・3 階に設置しているラーニング・コモンズは学生の自発的な学修の促進、協同学修を推進している。令和 6 年度には年間で延べ 6900 名が利用した。

〔改善の方向性・課題〕

学部の垣根を越えて情報共有を行い、大学全体の教職課程の質向上を目指す。教職課程を取り巻く状況は日々変化しており、進化していく教育ツールに対応できる設備の整備や複雑化していく学生対応について FD 活動・SD 活動を通して研鑽を積む必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1－2－1：大学ホームページ（教職課程に関する情報公開）
- ・資料 1－2－2：授業アンケート

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

学科ごとに入学受入れの方針を策定し、広く学内外に公開している。大学ホームページや学生募集パンフレットでは採用試験合格者数や学生のインタビューを掲載し、資格取得の意義や魅力を伝えている（資料 2-1-1）。また、オープンキャンパス、高等学校訪問等で本学の取り組みや特色をアピールし、将来教職に就くことを希望する学生の確保に努めている。オープンキャンパス等の説明会では受験生に対して教職課程の説明を行っており、入学受入れの方針に基づく入学選抜が実施されている。入学後は各学科で定期的にガイダンスを開催して、教職課程科目や教員免許状の取得に必要な事項の説明を行い、必要に応じて履修相談を受けている。

教職課程履修を開始する基準は設けておらず、基本的には初年次以降履修が可能だが、段階的な単位取得を求めている。特に、養護教諭免許状を取得するための学外実習（養護実習・看護臨床実習）及び教育実習（幼・小・中・高）は GPA や先修科目等の履修要件を設定しており、満たしていない場合は履修を認めていない。また、「特別支援教育実習」については 2 年生の秋学期までの GPA を用いて履修者を選抜し、原則 20 名までとする等、教職を担うにふさわしい学生を養成できるような体制を整えている。（資料 2-1-2）

履修カルテを活用して必要な資質能力に関する評価、学外実習やボランティア経験等の状況を把握し、教員としての資質能力を高めていくよう個別的な指導支援を行っている。

（資料 2-1-3）

〔優れた取組〕

健康福祉学部健康科学科は入学時点でほぼ全員が養護教諭の取得を希望しており、同じ目標を持つ学生が多いことから、免許取得に対して高い意欲を維持している。

教育学部子ども発達教育専攻は幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の中から、取得したい免許に応じて入学後にコースを選択でき、学生の適性や将来への展望に添うような履修が可能となっている。また、本学併設の幼稚園や諸学校園と連携して、様々な実習や地域連携活動を実施しており、教員としての資質や能力を高める環境を構築している。

福祉の精神と高度な専門的知識をもって、子どもの心のケアや発達障がいへの理解等教育現場で求められている知識を深めた教職を担うにふさわしい学生を育成している。

〔改善の方向性・課題〕

本学全体の課題として、学生確保に向けての魅力向上、体制の整備が必要である。

健康科学科、教育学科においては教職課程の履修を前提に入学してくるが、在籍途中で教職課程の履修を取りやめる学生がいる。入学前に学科の十分な説明と教職課程に関する情報提供を行うことが求められる。また、入学後も免許取得に対して高い意欲を維持する施策をより充実させる必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 2-1-1：学生募集パンフレット
- ・ 資料 2-1-2：学生便覧
- ・ 資料 2-1-3：履修カルテ

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

学生の指導については教職課程担当教員だけでなく、学科会議等を通して学科教員全体で情報を共有している。また、教職科目の多くの授業を専任教員が担当しているため、学生の状況も把握しやすい。教員だけでなく、職員の観点からも実習室での事務手続きといった日常的なやりとりを通して、学生の様子を観察し、教職課程に対する意欲や進路志望を把握している。また、教職に就いている卒業生や教育現場の教員の話聞くことで、就職への意識を高めている。卒業生に対しては卒業後も定期的に集う機会を設けることで連携を図っている。

教職におけるキャリアについては授業だけでなく、授業外でも系統的に支援が行われている。学生支援センターでは地方公共団体からの情報収集に力を注ぎ、教員としての採用を希望する学生に対して情報を提供している（資料 2－2－1）。また、就職活動に関するセミナーや実務経験豊富な教員による教員採用試験対策講座を開講している。4 年時は夏季休業期間中も含めて、採用試験に向けた面接練習や個々に応じたキャリア支援を行なっている。

図書館やラーニング・コモンズをはじめとした共同スペースに、各府県市町村の教員採用試験過去問題集、教科書類、参考書等を設置し、教員採用試験に関する図書の充実を図っている。採用試験に向けての勉強法や採用に関する情報を得られるような機会を準備している（資料 2－2－2）。

〔優れた取組〕

専任教員が学生一人ひとりに対して入学から卒業まで、学修・資格取得・就職等、学生生活全般の相談に応じてサポートする「アカデミック・アドバイザー制度（AA）」を全学的に導入している。AA 教員による学生への面談や行動記録等を関係教職員が共有して、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

〔改善の方向性・課題〕

多様化する学生に対応すべく、職員の対応力を高める研修の充実を図るほか、意欲や適性をより効率的に把握して情報共有できる方法を検討していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2－2－1：求人検索ナビ
- ・資料 2－2－2：関西福祉科学大学・関西女子短期大学図書館蔵書検索 OPAC

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3－1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

本学の建学の精神・基本理念は、その母体である学校法人玉手山学園の建学の精神「感恩」を原点としている。「感恩」とは、有形無形の数々の恩恵に気づき、生かされていることへの感謝の念を表す精神である。それぞれの学科では建学の精神に基づく理念として、健康科学科及び福祉栄養学科は「福祉利用者が何らかの弱点を補いつつも、幸せな人生を生きることを『健康』と『栄養』の側面から支援する」、教育学科は「子どもの成長

をめぐる様々な課題や要望に応えるための教育研究を行い、子どもの健康な発達に貢献できる人材を育成する」ことを掲げている。学科の専門科目と教職課程における教科の科目を近い分野で構成することで、専門性の高い教員の育成に寄与しており、建学の精神を具現する特色ある教職課程カリキュラムを編成・実施しているといえる。

本学の教職課程カリキュラムは教育職員免許法施行規則、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムに対応して編成するだけでなく、所在する都道府県（大阪府）の教育委員会が策定する教員育成指標を考慮し、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画を策定することで、今日の学校教育に対応する工夫がなされている。

「データサイエンス入門」及び「情報処理学」を必修とし、ＩＣＴ機器を使用するための基礎を身につけている。そのうえで「教育の方法及び技術」「各教科の指導法」を主軸に、教員として身につけることが必要なＩＣＴ活用指導力に関する内容を取り扱っている。また、基準項目１－２で述べたとおり、令和５年度入学生よりノートパソコン必携化を行っており、一部の科目では電子教科書を使用する等、今後のＩＣＴを活用した教育に対応できるように準備している。

全ての科目のシラバスに到達目標、授業計画、事前・事後学習の内容、成績評価評価基準を記載しており、教職課程カリキュラムの科目もそれに準じている。また、各授業科目のシラバスは大学ホームページで検索できるようになっている（資料３－１－２）。シラバスには授業形態も記載しており、各授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやグループワーク、模擬授業等、多様な学びをもたらす工夫を行っている。

基準項目２－１で述べたとおり、教育実習（幼・小・中・高）は履修要件を設定しており、満たしていない場合は履修を認めない。また、「特別支援教育実習」については２年生秋学期までのGPAを用いて履修者を選抜し、原則２０名までとしている。実習指導は担当教員が中心となって行い、教員が実習巡回することで学生は安心して実習に取り組んでいる。また、履修カルテの記載を通じて見出された課題に対して個別に対応する等、学生の資質能力に応じたきめ細やかな指導が行われている（資料３－１－３）。

〔優れた取組〕

本学の教職課程カリキュラムは、教育職員免許法施行規則に定められた所定単位数以上を履修するように設定しており、習熟度が高いといえる。また、各学科の専門性を基礎として教員免許を取得するため、強みをもった教員の育成に繋がっている。

〔改善の方向性・課題〕

教員養成の質を担保しつつ、カリキュラムのスリム化や学生の免許取得上の負担減を検討する必要がある。

今日の学校教育への対応や履修カルテの活用について、教職課程担当者の裁量に委ねられている部分が多い。FD・SD等を通じてさらに共通理解を図っていくことで、学生への指導内容がより有益なものになる可能性がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料３－１－１：学生便覧
- ・資料３－１－２：シラバス
- ・資料３－１－３：履修カルテ

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

教職課程の授業担当者は、取得する教員免許状での実務経験がある教員を配置している。実務経験がある教員が学校現場での課題を授業で取り上げることで、取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成している。

実際の教育現場を体験できる教育実習や教職課程の総まとめとなる教育実践演習は特に重要な科目として位置付けている。教育実習については、事前指導の時点で考えられる課題は解消し、実習が実りあるものとなるように準備している。実習終了後は実習日誌を活用して振り返りを行うことで、強みや改善点を見つけ、成長するための糧としている（資料3-2-1）。また、担当教員が実習校を訪問し、学生の実習態度や実践的指導力を把握するとともに、教育実習校と情報交換を行い教職指導に活かしている。実習校との連絡については、教職課程センター及び各学科の実習室の担当職員が教育委員会や各学校と調整を行っており、事務的な観点から実習を支援し、適切に対応している。本学は複数の学科で教職課程が開講しているため、異なる学科の学生が同じ学校で実習を行う場合も考えられる。実習の申し込みや教員の訪問の際に不備が起きないように、全学的な実習統括委員会にて教育実習に関する情報を共有し、調整を行っている（資料3-2-2）。

介護等体験はコロナ禍で代替措置が続いていたが、令和7年度からは特別支援学校及び福祉施設での体験を行う予定である。学校ボランティアは大学の主体的な関与の下で行っており、地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会となっている（資料3-2-3）。これらの学校体験活動（介護等体験、学校ボランティア）は、実際の活動だけでなく、事前事後の指導も含めて教員としての資質を高める機会となっている。

〔優れた取組〕

玉手山学園は大阪府柏原市と包括連携協定を結んでおり、柏原市に住む小学生を対象に本学学生が夏休みの宿題をサポートするボランティアを実施している。

〔改善の方向性・課題〕

教職科目や専門分野科目の授業で獲得できる理論的知識を実践的指導力の養成につなげていく仕組みや、学校体験活動（学校ボランティア）での経験をより活かすための仕組みを構築を検討する必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料3-2-1：教育実習日誌
- ・ 資料3-2-2：実習統括委員会議事録
- ・ 資料3-2-3：地域連携公認プログラム

Ⅲ．総合評価（全体を通じた自己評価）

関西福祉科学大学は、建学の精神「感恩」のもとで、教職課程としては健康科学科で主に養護教諭、福祉栄養学科での栄養教諭、教育学科での幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭の養成を行っている。各学科の実習室を中心に教育実習や養護実習等に教職員が一丸となってきめ細やかに学生に対応しつつ、各学科の教員から構成される全学組織の教職課程センターを設置して全学的な体制を取ることができるようにしている。

特に、大学名に「福祉」を冠することに象徴されるように、小学校教諭のみならず、養護教諭・栄養教諭や幼稚園教諭・特別支援学校といったケアの論理が入ってくる教員の養成を重視していることは、21世紀における世界的趨勢からも重要である。実際に多くの卒業生が学校現場で活躍しており、社会貢献の一翼を担っていると言える。

実習に際してはGPA等の履修要件を定め、各学科ごとに学校へ実習を送り出す際に責任ある体勢を取れるようにし、教員免許の質保証を心がけている。また、教職課程にとどまらず全学的な取組みとして、ラーニングコモンズの整備等によって学生の学びの環境を用意し、アカデミックアドバイザーによって学生一人一人の成長を支えるようにしている。

一方で、課題として教育職員免許法第四条2にある、教諭・養護教諭・栄養教諭の3種全ての養成を担いながら、学生は各学科の学びに追われ、学科を超えた連携までは至っていない。教職課程外ではあるが他学部でスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの養成も行っており、チーム学校を担う人材養成を、全学的な取組みとしていくことが今後の大きな課題である。

他にも個々に存在する課題に取り組みつつ、関西福祉科学大学が日本の教員養成及び学校、ひいては子どもたちにさらに貢献できるよう改善を重ねていく所存である。

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

令和3年度は教職課程委員会において実施体制を検討した。令和4年度は「教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」の基準により作成した「自己点検・評価シート」を各学科の教職課程委員が作成し、自己点検を実施した。令和5年度は上記の「自己点検・評価シート」を集約し、全国私立教職課程協会の記入フォームに対応した「自己点検・評価報告書」の執筆を進めた。令和6年度は継続して「自己点検・評価報告書」の作成に取り組み、本報告書が完成した。本報告書は教職課程センター所属職員が原案を作成し、次に教職課程センター長が各学科の活動を参照しながら本学の教職課程全体の取り組みを総括した。本報告書は教職課程センター会議にて承認後、全国私立大学教職課程協会へ報告及び大学ホームページにて公表予定である。